

市政に関する一般質問の概要

9月12日、13日、17日に議員19名が市の考えをたしました。主な質問、答弁の要旨を紹介します。

一般質問では、市議会議員が市長などの執行機関に対して、海老名市の行政事務全般にわたってその執行状況や今後の方針などについて説明を求め、議員の考えを表明するなど、よりよい市政を目指してさまざまな議論が行われています。

今回は、医療や福祉の分野をはじめ市民に身近な問題を中心に、48項目の一般質問がありました。詳しい内容は会議録でご確認ください。



会議録は市役所1階の情報公開コーナー、中央図書館・有馬図書館でご覧いただけるほか、インターネット上で公開しています。

<会議録の閲覧検索> 市のホームページから「海老名市議会」→「会議録検索」

また、一般質問をはじめ、本会議の様子はインターネットで録画配信しています（これは海老名市議会の公式記録ではありません）。

<本会議の録画配信> 市のホームページから「本会議中継」→「本会議ライブ中継」、「委員会中継」もご覧いただけます。

録画配信はこちらから▶



市における医療体制の確保について

政進会 葉梨 之紀

問 日本のコロナ・パンデミック経費支出はGDPの50%にも上る巨大な規模になりましたが、社会システムにおける生命活動を感染から守るため、活動自粛を要請しつつもその代償を給付して生産活動と雇用の継続を図ることで、実質GDPの落ち込みも比較的軽微で推移しています。

その一方で、公立病院の病床数削減などにより危機に対応する余力を失った日本の医療提供体制の弱さがネックとなり、財政支出を増加させたところで医療サービスを提供できないという事態に陥ってしまいました。

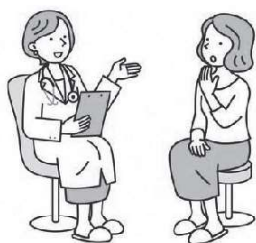
市は今回の新型コロナウイルス感染症に対して、一自治体としてできる限りの対応をしてきたと思っています。現在でも軽症とはいえ変形菌によるコロナウイルス感染症が発生していますが、医療機関体制の維持確保という点について、市の考えをお聞かせ願います。

答（市長）：本市には公的医療機関がないため、市が主体的に医療体制を整えることはできませんが、新型コロナウイルス感染症への対応では、海老名市医師会をはじめ歯科医師会や薬剤師会などの絶大な協力の下で、PCR集合検査やワクチンの集団接種ができたと思っています。

本市が新型コロナウイルス感染症に常に対策を打っていたのも、市と医療関係団体や医療機関が一体となって取り組んだ成果であり、こうした良好な関係性が本市の強みだと自負しています。今後も医療関係団体や各医療機関との関係性の維持向上に努めるとともに、本市の医療資源を最大限活用できるように努めていきたいと考えています。

その他の質問

・大規模地震発生時の市の対応について



带状疱疹ワクチン・ピンクリボン・熱中症対策について

公明党 太下 久美

問 国の定期接種化となる見通しの带状疱疹ワクチンについては、引き続き接種対象年齢や接種費用の現状維持を求めますが、市の見解を伺います。

答（保健福祉部長）：国が定期接種化の検討を進めており、早ければ令和7年度から始まると聞いていますが、現段階では詳細については全く示されていないため、国の動向を注視しながら、引き続き今後も対象の皆さまが接種しやすい環境の整備に努めてまいります。

問 乳がんの早期発見、早期診断、早期治療の重要性を伝える啓発運動であるピンクリボンについて、市の見解とピンクリボンの取り組みを伺います。

答（保健福祉部長）：10月のピンクリボン月間に先立ち、9月に開催する健康フェスタでは、湘南記念病院の土井卓子先生と歌手の麻倉未稀さんによる特別講演などを実施するほか、市役庁舎北側と南側のガラス面をピンク色のハート型に装飾したり集団検診車をピンクリボン仕様にするなど、熱中症による救急搬送者が急増する昨今、市の熱中症対策についてお伺いします。

答（市長）：環境省と気象庁が発表する熱中症警戒アラートを受け、防災行政無線放送とえびなメールにより注意喚起を行い、また普及啓発を図るために対面講座とともにオンライン講座を1カ月程度継続して行っています。

問 本市もクーリングシエルターについて、設置を考えるべきだと思いますが、見解を伺います。

答（市長）：クーリングシエルターとして公共施設だけでなく商業施設にも依頼をするなど、来年度に向けて準備を進めたいと思います。

